

# 徳島縣の僻地教育

(多田教授指導)

大学院社会学研究科修士課程一年

熊野ゼミナール

高 橋 義 寛

昨年夏、徳島縣の僻地教育を研究すべく予め文部省調査課のデータを見せてもらつたところ、徳島縣が最も熱心に僻地教育問題に関する調査を行つてゐることがわかつた。縣教育庁阿部主事の話では、僻地教育には優秀な教員を当らせている、とのことであつたが僻地教育というものを、その土地の農林水産業、地勢、交通、気候、習俗などから深く考察した場合、これらの条件によつて如何に規制されているのか、そしてかゝる僻地にあつては優秀な教員とは具体的にどのような教員でなければならないのだろうか、ということが私の疑問であつた。七月二十日に僻地教育改善委員会があつて、そのとき私は佐藤指導主事より大津、松尾、石田各校長を紹介され海部郡相川小学校、三好郡東祖谷和田小学校、勝浦郡福原中学校に行くことゝなつた。

海南町相川は旧川上村、海部川の支流に沿つて点々と谷間の平地に散在する部落よりなる單調な地形であり、面積三一・二町、その約九八%が山林である。戸数約二百戸、人口一〇九九人で純山村農家が殆どを占め、こゝで施設といへば森林組合や農協出張所と二つの保育所それに五十冊ほど図書をもつ公民館がある。中学校、郵便局、町立診療所（医師一名）へは小学校から約六軒、電灯も終戦後全体に普及したが電話は未だ三ヶ所しかなくラジオは九五ヶ、新聞は案外少い。交通の不便は僻地の共通点だがオートバイと自転車の台数の多いことでこれを補うとしても相川小学校はバス停留所から三軒もあり児童の通学距離は二軒以上四十%、四軒以上二十%となつてゐる。この小学校は児童数一二一名、指導するのは師範出の校長ほか検定一名、農学校卒一名、新制大学卒四名の先生方である。学校林を処分した残りの四万円にて二百五十冊ほどの図書を購入したが教育設備は十分でない。子供達は児童会で部落ごとに分れてラジオ体操をし共同学習をやり道路の奉仕作業を行い、たまに写生会を催し夏には川で水泳をする。生徒一人のPTA費は月二十円だがこゝではPTAと婦人会が連合しており、毎月一回の学校参観日には出席する殆どが母親である。私が帰

省の途中立ち寄つてみた奈良縣賀名生小学校の参観日は母親の出席率が非常に良いのであるが、この地方は果実栽培の労働が激しいため家庭の主婦が仕事を休む意味をもち学校側もそれを認めているという実例があつたが、相川小学校の場合がこれと同じものだと考えられない。相川では農繁期といつても処により田植えの時期が十日ほどずれがあり父兄の希望で農繁期の児童の学校休みをなくしているのである。経済生活は平均して一応安定しているのだが児童をもつ家庭の教育への関心は上と考えられる戸数が一五%で下が九%、他は普通で、上級学校進学をさせるのは少い。相川小学校では五年六年が複式学級になつていて単級になるのは二、三年後の見通しだという。智能、国語テストの統計では学年が進むにつれて智能の割に学力（特に国語）の低下がみられ、五年と六年の差が著しいのはこのためかとも考えられるのである。児童の身体状況では身長、腕囲において男子は全国平均なみ、女子は各学年とも非常に悪い。そして虫歯をもつものは全児童数の七五%である。衛生観念も高めなければならない。

「子供は純朴であるが、あとしまつが悪い。これは生活様式からもたらされるのでしよう。希望するのは学校図書館法による三万円でもつと図書を整え理科設備も充実させること、更に教員の住宅問題を解決することです」と大津校長はいう。

三好郡東祖谷村は二二七平方軒の八割が山岳で占められ、田六四町、本畑四四一町、焼畑八七三町、戸数一六五三戸、人口約八千三百人の純山村である。米は六四七石しか産しない。こゝでの換金作物は三稜、楮、<sup>みつまた こうぞ はたばこ</sup>葉蓂などであり更に原材木を出すことによつて米を買入れるという関係にある。和田小学校では児童一七二名、そのうち五年六年は複式、合併している中学校は中学生数五九名、一学年は複式学級となつている。検定二名、師範卒二名、大学（短大を含めて）五名の先生方が指導しているのではあるが和田小学校は徳島縣内での学力検査の成績は最低位であり、児童平均の智能程度は中の下と考えられる。七部落の男女中学生一七名で数学が難しいと答えたもの一六名、国語一名、英語二名であつた。生徒達の話では先生を恐しいと感じたことはないが宿題の負担が重いという。こゝでは労働が過激なのだ。時期ともなれば葉蓂を蒔り、乾燥させ、繩に挟む仕事が朝から日暮れまで続く。（賃賠償金一ケ年一千五百万円）夕食後の一時間ほどに予習、復習、宿題をやらねばならない。労働はそれだけでない。耕地が少なくて斜面耕作が大部分なので草蒔りのほか堆肥や土の運搬までしなければならない。それでも労働力は不足する。長期欠席児童の少くない

理由も肯けるであろう。小学生四名、中学生七名となつている。他の町村に比較して早婚の風習があるのも労働力補充の意味があるのだ。一ヶ月一人当り生活費四千円のうち食糧費二千元、エンゲル係数五十、しかもこの村では農家が戸数の九七・八%なのである。児童の学力低位は何よりも生活の貧困とそれに伴つて余儀なくされる長時間の労働に原因が見出される。男子の場合はその度合が強いので小中学校とも女子の成績が良い。村での文化的施設はなく学校図書が中学三〇九冊、小学四四八冊である。電灯のない児童の家庭も残つており学校さえ昭和二二年に配線されたほどである。年一度の身体検査で医者より警告を受けた児童も若干いるのだが学校には一円の保健衛生費すらない。一七名の児童に「新聞をとつていない家」と尋ねたら一四人の手が拳がつたときは啞然とした。文学的抵抗を受けるのと労働による時間的制約のためだと先生は説明された。

「山の子供は可哀そうだ。父兄の教育熱は四十年ほど遅れている。学校側としてはPTAの協力を切望したい」と、和田小学校に十二年間勤務の松尾校長は真剣な態度で語つた。二百円の傘が買えなくて登校できない児童もあるし、弁当がなくて運動場の片隈に坐つている児童もある。高い月謝を払つて家庭教師を招く都会の児童とこうした僻地の生徒と、学力偏差の生じるのも一概に政治の貧困とのみいゝ切れないかも知れないが民主社会なら教育の実質的な機会均等のための具体的政策の実現を目的とすべきではなからうか。戦争時、三好郡に疎開した経験があるので田舎の子供が生長して何を感じるか理解できないわけではない。「さようなら、また来ます」私は、偽りも穢れも知らず母なる自然に抱かれてすすくと育つてゆく山の子に別れを告げた。

勝浦郡上勝町は人口約七千人、戸数千五百戸ほどを有し、土地面積の九十%が山林であることから形式的規模よりみれば東祖谷と変らないと考えられるが診療所四、ラジオをもつのが戸数の八十%、新聞九十%、電話三十%ということを考慮に入れるならば二地域の経済的生活程度の区別が判然とするであろう。農家は一戸平均四段以上の田畑と月一万五千五百円ほどの収入を有し、全体として金の動きは大であるが貧富の差も大きい。この福原中学校もやはり小学校と併せられており検定一名、専門学校卒二名、師範卒二名、新制大学卒四名の先生方が指導に当つている。私が福原に行つたとき、徳島県代表として札幌での全国図書館協議会から帰られたばかりの石田校長を中心に、平均年令二七才という若い教職員が実に和やかに談論しているのをみていると、月三百六十円の僻地手当に甘んじ、発表の機会にも恵まれず、なお孜孜としてそのなかに

楽しみを見出してゆく明朗で健全な態度を心頼もしく思つたのである。図書千五百冊（文部省による最低基準千三百冊）を揃えPTA費用も一戸一ヶ月四十円で他校に比べ倍額になつている。父兄の教育も大学卒二名、高等、専門卒五名、旧制中等学校卒六十名と、相川や祖谷の例をオーバーしているが児童の教育は学校に任せきりの形で、年四回のPTA総会をもつて参観日としている。複式学級も町から給料を出すことにより解消した。他の僻地町村と比較して相対的に条件のいゝ児童の集まる福原はモデルスクールとされているだけに学力智能程度は全国平均以上である。児童は性向テストによると男女共内向的である。しかも他の都市や農村の児童に比べてその程度がかなり強い。家庭での生活が楽しくないと答えているものが七五人のうち三八人もある。その他、自己の時間が少い、叱られる、という意見もある。学科目については、女子は体育実技を、男子は英語を不得意とするものが多い。先生への態度は良好であるが警戒心が強いということ、無知による純朴及び家庭での労働による抑圧からだというのが先生方の見解だ。それに、あとしまつが悪いことは僻地児童の共通癖である。

「児童達は宿題に熱心だがユーモアのセンスに乏しいので、のんびりした教育が必要である。仕事はするのだが掃除などはエゴイスティックな面があり動作のテンポが遅い。発言することには消極的である。これらが反映して青年になつても農業を嫌うようになる。それに文部省の要求は僻地に適しない。僻地の都会化が悪く、僻地の社会化を改める必要がある」。このように長尾教頭は最後にいゝ結んだ。

ところで僻地学校に子供を学ばず父兄はどのように考えているかを聞いてみると、

小学生母「もつと教育費を町村で負担してほしい。生徒には習字の力をつけさせてもらいたい」

中学生・高校生母「英語は都会に比べて非常に遅れているように思う。また先生が家庭訪問をしてくれることを希望します」

小学生・中学生父「子供の学校からの帰りを待ちきれないほど忙しい。子供達には用事を多く手伝ってもらつている。家庭訪問は多いことを賛成する。先生の思想や態度は戦前がいゝと思う。米は統制が必要です、農家では再軍備反対が多いです。生活程度は戦前より向上しました」

農事相談所員「児童達は時間的に恵まれていません。教育は先生に任せきりです。教育費は多くを町村負担に願いたい。町村経済としては粗放的でしたが

これからは林業中心に多角的経営にしなければ

数多く話合った父兄側の希望の多くは県や町村で教育費を負担してもらいたいということであつた。では日本の農家は一般的にみて如何なる状態にあるのか。私が丁度福原での調査を終えた八月二日の新聞紙上、「農林水産の現状と問題点」と題して農林白書が掲載されていた。それには農林水産業の鉱工業への立ち遅れ、一言にして「生産性の低さ」を指摘している。農民の地位向上は農業生産性向上以外にあり得ないとし、米麦中心の食糧増産政策から方向転換する要あり、としている。戦前は労働生産性よりも土地生産性に重きをおき、肥料と品種改良が中心だつたが戦後は除草薬の普及などにより技術的に（例、水稻の保温折衷苗代を応用した西日本の水稻早期栽培）進歩した理由として土地改革による農民の地位向上、そして低率金納小作料によつて農民の投資が増大し農業生産は戦前の水準の二割も超えた、というのが農林白書でも認めているように相変らず農業所得の低さと食糧供給力の低さとが最大の癌となつていたのである。

前年七月、僻地教育問題に関する山口県での全国大会では、徳島県は相対的にいつてまだましだ、と私は聞かされている。明治以来日本が欧米資本主義諸国に追いつくために、犠牲を強いられたのが労働力と農業であつたことは隠れもなき事実である。それがなお、このように残つているところに現在日本の経済構造的跛行性が存在しているのである。産業生長率の急テンポの上昇にも拘わらず依然として農業部門の停滞、これである。父兄が無理解なのではなく、経済関係が理解の余裕を与えないのだ。児童の智能が低いのではなく、学習に積極的態度をもたせる社会的要素が缺けているのである。このことを観念的に説明するよりも祖谷と福原の児童達がどうして学力程度の甚だしい差を生じているかを考えてもらいたい。文部省初等中等局山川事務官は次の如く語つた。

「予算がないのだ。金があれば相当な効果を挙げ得る。現在としては学習指導法の改善を行い、優秀な教員を当らせることだ」と。

僻地の学校では複式学級の問題がある。一人の教員が二ヶ学年を担当すると学習指導の複雑さのためカリキュラム作成が困難である。それに僻地では視聴覚教員も不充分だから、これら種々の障害を克服して指導に当る教員は一教科の専門家でなく、万能の、また恵まれない環境にある児童を愛する態度と、自己の責任を感じる熱意ある教師でなければならぬ。優秀な教員とはこうした教員を指すのだと私は思う。

私の専攻は中国政治史である。新中国は予算の六〇%以上を経済建設と社会

文教費に割当てゝいる。勿論日本とは発展段階を異にするが我国においては教育予算が足りないというときにも鉄筋鉄骨のトルコ風呂が建ち、農業用電力の不足するときにも数十万燭光をもつて野球場を照らす。こゝに問題があるのだ。

現在日本の理想は経済の均衡的發展と安定及び文化の質的向上による民主社会の構成であり、教育の機会均等はこのなかの主要な目標である。僻地の児童が学校に行けるというだけでなく都会で学ぶ子供達と同様に恵まれた設備をもち良い教師の指導を受けられることが真に教育機会均等の意味でなければならない。だが僻地教育問題は重要でありながら切実さを感じないために、やゝもすると忘れられるのだけれども徳島県では僻地教育振興法（昭和二九年法律第四百四十三号）第二条に該当する小中学校が、分校を併せて一六一校あることから僻地教育問題の重要性が再認識されるであろう。僻地の児童達は学力が低いといわれるがそれは都会の児童達に比して智能の偏差が大きいというのでは決してない。僻地という地域社会が自然的障害のため都会との接触が少く従つてそこには社会の後進性、封鎖性、遲滞性が支配するのである。こゝから生じる経済生活の貧困さや経験領域の狭さが僻地に育つた子供達の人格形成に影響するところは極めて大きいといえる。一般に僻地や田舎の児童は純真素朴で、それは良いことなのであるが、それがかゝる地域社会の特徴からきたものであるため刺戟に対する脆弱性が甚だしい。また僻地の文化面が低いということから児童の情操的發達が遅れ自主性や進取の氣象に乏しく消極的で依頼心が強く、それが殊に言語による表現能力に作用するので、都会の児童達に比較して学力低下という結果を示しているのも事実である。しかもこの問題が指導教師だけでは解決できず生活全般との関連から処理しなければならない点に根元的制約を受けているのではないだろうか。経済政策により農業と商工業の差別を是正しないかぎり、僻地教育問題も究極的には解決されない。私はこのように結論する。